

各位

上場会社名	株式会社 サダマツ
代表者	代表取締役社長 貞松 隆弥
(コード番号	2736)
問合せ先責任者	執行役員・管理部長 磯野 紘一
(TEL	03-5768-9957)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年4月6日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年9月1日～平成21年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	7,300	260	180	70
今回発表予想(B)	7,279	166	79	△24
増減額(B-A)	△21	△94	△101	△94
増減率(%)	△0.3	△36.2	△56.1	—
(ご参考)前期実績 (平成20年8月期)	8,463	194	122	131

平成21年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年9月1日～平成21年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	7,200	240	170	60
今回発表予想(B)	7,164	155	65	△31
増減額(B-A)	△36	△85	△105	△91
増減率(%)	△0.5	△35.4	△61.8	—
(ご参考)前期実績 (平成20年8月期)	8,058	234	184	204

### 修正の理由

わが国経済におきましては、当社グループの期首にあたる昨年秋以降も、段階的に深刻度を増す世界的な経済不況の影響を受けて依然として厳しい状況が続いております。当社グループが所属する宝飾業界のみならず、国内の小売業界は全般的に消費の低迷に見まわれ、事業構造の見直し等を求められております。また、消費者の低価格志向が進んでいる市況において、各商業施設では集客や売上高の維持に向けた諸施策の実施が頻繁に行われております。このため、宝飾業界においても利益の確保に格段の努力が必要となっております。

このような状況の中、当社グループでは平成21年4月6日に公表いたしました「平成21年8月期第2四半期累計期間(連結・個別)業績予想との差異及び通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」に対して、売上高はほぼ予想通りとなる見込みです。業界全体の業績や消費マインドが低迷する中、当社グループはビジネスモデルの変革の一環として推進している都市型・百貨店型の店舗展開が功を奏しております。当社の出店先となる百貨店やショッピングセンターにおいて価格訴求型のバーゲン催事等を強化されることで粗利率は圧迫されましたが、ベトナム子会社での低原価率製品の売上が貢献したことで、売上総利益に関しては結果的に予想通りとなる見込みです。

人件費を中心とした経費の効率化を実現したため、販売費および一般管理費に関しては、前期比では約343百万円(連結)の大幅減となる見込みですが、市場環境や流通環境への対応による集客促進のための販売促進費等の増加、経営基盤強化およびブランド開発強化のための業務委託費増加、積極的なスクラップアンドビルドに伴う店舗数の一時的重複による家賃費等の増加等により、予想に対しては大幅に上回る見込みです。

このため営業利益に関しては、予想を大幅に下回る見込みです。経常損益においては支払利息等の実額がほぼ予想通りとなる見込みですが、営業利益の減少に伴い予想に対して同水準で下回る見込みです。税引前当期純損益に関しては、特別損益において平成21年7月1日付けで公表済みであります台湾子会社の元董事長兼総経理による不正行為に伴う特別損失や、国内のさらなる景気後退による不振店舗の撤退損などが発生しました。当期純利益に関しては、経常利益減少に伴う税額も減少したため、結果的に予想に対しては営業利益の減少と同水準で下回る見込みです。

このため、平成21年8月期通期の連結および個別の業績予想につきましては、平成21年4月6日付にて発表しました業績予想を修正致します。

以上